

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第361回

栗山英樹

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年6月19日

編集委員：入試広報室 鈴木



## 今回の言葉

やるかやめるか、それで言えば、やめるのは一番簡単な決断だ。難しいからやめよう、不安だからやめよう、そうしていればたしかにリスクは回避できるかもしれない。

でも、決して前には進めない。

栗山 英樹は、東京都小平市出身の野球指導者、元プロ野球選手。マネジメントは有限会社オフィスマリーン。北海学園大学特任教授を務める。選手引退から監督就任までの間は野球解説者やスポーツジャーナリストのほか、白鷗大学教授としても活動していた。

## Column

現在『日本一有名な監督』と呼んでも過言ではないWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で世界一奪還を実現させたサムライジャパンの選手たちを率いた人物です。優しく丁寧で穏やかな人柄は何度となく多くのメディアで紹介されていました。私は幼い頃に栗山さんの現役時代を見ましたが、パワーでガンガン押し込んでいくようなタイプではなく、走攻守のバランスを大切に相手をよく見て対応するクレバーな選手という印象でした。自分のことを理解し、研究熱心だった選手時代のスタイルを指導者になっても貫いていったからこそメジャー組を含めた日本の野球エリートたちを完璧に統率できたのだと思います。

先に述べたように栗山さんは“堅実”を絵に書いたような、失礼ながらいわゆる“地味”な部類に入るような選手でした。ですから日本代表の監督という大きなオファーをよく受けたなという印象もありました。しかし、今回の言葉を知ることによって栗山さん自身の“内に秘めた闘志”や“信念”がよくわかりました。野球という日本の国技と言っても過言ではないほどの競技人口を誇る世界のトップに立った人ですから考えられないほどの努力もしたでしょうし、乗り越えてきた困難も数え切れないほどでしょう。ひとつの道を極めた人の強さや素晴らしさを改めて感じさせられました。今回の言葉のように“聞かれれば答えるが、多くは語らず背中で語る”という『漢（おとこ）』っぷりが現在のスター選手の心を掴んだのでしょね。

サムライジャパンのみなさんや栗山監督は私たちに『夢はきっと叶うんだ！』という勇気を与えてくれました。私たちも前を向いて勇気を出して進んでいきましょう！